

第七篇 軍争

凡そ用兵の法は、將、命を君に受け、軍を合わせ、衆を聚め、和を交えて舍す。軍争より難きは莫し。

迂直の計を知る

後から出発して先に到着 || 速度の優越

迂を以て直と為し、患を以て利と為す。

軍争を利と為し、衆争を危と為す

軍を挙げて利を争えば（|| 衆争）則ち及ばず、
軍を委ねて利を争えば（|| 軍争）則ち輜重損てらる。

軍に輜重・糧食・委積なければ則ち亡ぶ

奇正・虚実

先制・主動

軍争の法

預め交わる

軍を進行

地の利を得る

兵は詐を以て立ち、利を以て動き、分分を以て変を為す

(無形)
動 其の疾きこと風の如く
動 侵掠すること火の如く
静 知り難きこと影の如く

静 其の徐なること林の如し
静 動かざること山の如し
動 動くこと雷震の如し

(有形)

権を懸けて而して動く。

迂直の計を先に知る者は勝つ。

衆を用うるの法

金鼓・旌旗は人の耳目を一にする所以なり。

夜戦には火鼓を多くし、
昼戦には旌旗を多くす。
人の耳目を變ずる所以なり。

正・実

奇・虚

先制・主動

気心力變の四治

三軍は氣を奪うべく、
將軍は心を奪うべし。

氣を治むる

心を治むる

力を治むる

變を治むる

正々の旗を邀うること無く、
堂々の陳を撃つこと勿かれ。

兵を用うるの法

- ① 高陵には向かう勿かれ、
- ② 丘を背にするは逆うる勿かれ。
- ③ 佯り北ぐるを従う勿かれ、
- ④ 鋭卒を攻むる勿かれ。
- ⑤ 餌兵は食う勿かれ、
- ⑥ 歸る師は遏むる勿かれ。
- ⑦ 困む師は必ず闕き、
- ⑧ 窮寇には迫る勿かれ。

第七篇 軍争

第八篇 九変

変を治むる 正々の旗を邀つること無く、堂々の陳を撃つこと勿かれ。

(敵の形に應ずる変化)

- ① 高陵には向かう勿かれ、
- ② 丘を背にするは逆つる勿かれ。
- ③ 佯り北ぐるを従う勿かれ、
- ④ 鋭卒を攻むる勿かれ。
- ⑤ 餌兵は食う勿かれ、
- ⑥ 歸る師は邊むる勿かれ。
- ⑦ 困む師は必ず闕き、
- ⑧ 窮寇には迫る勿かれ。

(敵国の地理に應ずる変化)

軍を合わせ、衆を聚め...

- ① 圯地には舍ること無く、
- ② 衢地には交を合わせ、
- ③ 絶地には留まること無く、
- ④ 困地なれば則ち謀り、
- ⑤ 死地なれば則ち戦う。
- ⑥ 塗に由らざる所あり。
- ⑦ 軍に撃たざる所あり。
- ⑧ 城に攻めざる所あり。
- ⑨ 地に争わざる所あり。

(君命を変更して勝利を得る九変の利)

君命に受けざる所あり

兵を用うる

地形を知る

九変の利

九変の術

時宜 地の利

(将の変)

兵を治むる

地の利

人の用

智者の慮は必ず利害を雜う

(攻勢) ① 利務めは信なるべし ② 害患いは解くべし

③ 書諸侯を屈する ④ 業諸侯を役する ⑤ 利諸侯を趨らす

(守勢) 其の来たらざるを恃む無かれ、

吾れの以て之を待つ有るを恃め

|| 我の備を 実にする

将に五過あり

- ① 必死は殺すべく、
 - ② 必生は虞にすべし。
 - ③ 忿速は侮るべし。
 - ④ 廉潔は辱しむべし。
 - ⑤ 愛民は煩わすべし。
- (敵将に應ずる五要則)

用兵の害を知らざる者は、則ち用兵の利をも知ること能わざるなり (第二篇 作戰)

将とは、智・信・仁・勇・嚴なり (第一篇 始計)

第九篇 行軍

軍を処き敵を相る

四軍の利四つの地形における軍の「基本的行動」

- 山に処するの軍
- 水上に処するの軍
- 斥沢に処するの軍
- 平陸に処するの軍

軍を処く

敵を相る

山二兵の利・地の助け

凡そ軍は高きを好みて、下きを悪み、陽を貴びて陰を賤しむ。

川を越す法

上に雨ふりて水沫至らば、涉らんと欲する者は、其の定まるを待て。

地形の「六害」

絶澗・天井・天牢
天羅・天陷・天隙

必ず亟かにこれを去り、近づくと勿かれ。

伏奸の所

險阻・溝井・林木
葭葦・藜藿

必ず謹みて覆索せよ。

敵を料る

三十二相の法

地利によって敵を相る

(1) 形を相る

(2) 草木を相る

(3) 禽獸を相る

(4) 塵を相てその情を知る

(5) 使者を相る

(6) 兵卒を相る

(7) 陣營を相る

(8) 軍政を相る

(9) 備蓄を相る

(10) 將を相る

(11) 情を相る



兵は多を益すを貴ぶに非ず、**力**を併せて、**敵**を料り、**人**を取るに足るのみ。

令するに文を以てし、**齊**うるに武を以てする。

令の素より行はるる者は、**衆**と相い得るなり。

道は、民をして上と意を同じくせしめ、之と死すべく、之と生くべくして、危を畏れざるなり (第一篇始計)

三十三相の法

①	近くして静かなる者は其の険を恃むなり	形を相る
②	遠くして戦いを挑む者は人の進むを欲するなり	
③	其の居る所易き者は利あればなり	
④	衆樹の動く者は来たるなり	草木を相る
⑤	衆草の障多き者は疑わしむるなり	
⑥	鳥起る者は伏なり	禽獸を相る
⑦	獸駭く者は覆なり	
⑧	塵高くして鋭き者は車来たるなり	塵を相てその情を知る
⑨	卑くして広き者は徒来たるなり	
⑩	散じて条達する者は樵採なり	
⑪	少なくして往来する者は軍を営するなり	使者を相る
⑫	碎の卑くして備えを益す者は進むなり	
⑬	碎の強くして進み駆る者は退くなり	
⑭	軽車先ず出でて其の側に居る者は陳するなり	兵卒を相る
⑮	約なくして和を請う者は謀なり	
⑯	奔走して兵を陳する者は期するなり	
⑰	半ば進み半ば退く者は誘うなり	陣營を相る
⑱	仗して立つ者は飢うるなり	
⑲	汲みて先ず飲む者は渴するなり	
⑲	利を見て進むを知らざる者は死するなり	軍政を相る
⑲	鳥の集まる者は虚なり	
⑲	夜呼ぶ者は恐るなり	
⑲	軍擾るる者は将重からざるなり	備蓄を相る
⑲	旌旗動く者は乱るるなり	
⑲	吏怒る者は倦むなり	
⑲	馬を殺し肉を食ふ者は軍に糧無きなり	將を相る
⑲	飯を懸けて其の舎に返らざる者は窮乏なり	
⑲	諄諄翁翁として徐に人に言ふ者は衆を失うなり	
⑲	敵々賞する者は窘しむなり	情を相る
⑲	敵々罰する者は困しむなり	
⑲	先きに暴にして後に其の衆を畏るる者は不精の至りなり	
⑲	来たりて委謝する者は休息を欲するなり	敵の動静を相る
⑲	兵怒りて相迎え、久しくして合わず、又た解き去らざれば、必ず謹しみてこれを察せよ	